熊本支援 一日でも早く

募金で恩返し

県内のネパール人

県内在住のネパール人が、昨年4月のネパール大地震で受けた支援のお礼にと、熊本地震の被災地支援の募金に乗り出す。同胞の生活支援などに取り組む「岡山ネパールソサエティ」代表のアチャーリヤ・プレム・プラサドさん(38)は「ネパール大地震で支援をしてくれた人たちに恩返しがしたい」と語る。【瀬谷健介】

募金活動の打ち合わせをするアチャーリヤさん（右）と日本人支援者＝北区下中野で

昨年4月25日に起きたネパール大地震では、周辺国も含め約9000人が犠牲となり、約800万人が被災した。ネパールでは、今なおテント暮らしを余儀なくされている被災者も多く、住宅再建が急務となっている。

日本からも多額の義援金が被災地に贈られた。アチャーリヤさんも県内を中心に寄付を募り、知人ら約100人から計約67万円が寄せられ、故郷の人たちの家屋の修繕や建設に使われたという。

ネパール大地震から、ちょうど1年になろうとしている時に熊本地震が発生。大きな被害に県内在住のネパール人らも心を痛め、日本人支援者も含め約50人が4月24日に北区内に集まり、「自分たちにできることはないか」と話し合った。現地で炊き出しをする案も出たが、慣れない土地であることなどから断念。少しでも力になりたいと、募金活動をすることを決めた。その場にいた人たちから、すぐに約6万円が集まったという。

活動の第1弾として、6日午前7時半から、北区のイオンモール岡山近くの市役所筋に立ち街頭募金をする。また、アチャーリヤさんらが県内で経営するインド料理店など11店に随時、募金箱を置く。寄付金は被災地で活動する国際医療NGO「AMDA」（北区）に寄託するという。

アチャーリヤさんは「ネパール大地震の際に日本から多額の寄付に感謝の気持ちでいっぱいだった。集めたお金を役立ててもらい、熊本が一日でも早く復興してほしい」と話している。